浜・私・幼

横浜市幼稚園協会　協会報　No267

公益社団法人　横浜市幼稚園協会　発行
〒221-0055
横浜市神奈川区大野町1-25
横浜ポートサイドプレイス　アネックス5F
電　話　045（534）8708
http://www.kids-yokohama.or.jp
編　集　横浜市幼稚園協会広報部
発行者　木元　茂
印刷所　合資会社横浜大気堂

幼児教育振興法案が衆議院に提出

公益社団法人横浜市幼稚園協会
会長　木元　茂

▲木元　茂　会長

平成28年5月24日に「幼児教育振興法案」が衆議院に提出されました。会期の関係で継続審議となりましたが、国会の場において幼児教育の重要性が議論されるのは、子ども子育て支援新制度に続くもので、幼児教育の果たす役割、重要性をより多くの方々に知っていただく良い機会になればと思います。

幼児教育振興法、その背景と目的は、小学校入学前の幼児期において、人は、その保護者や周囲の信頼できる大人との愛情あるかかわりの中で守られているという安心感に支えられ、自発的な遊びを通じて生涯にわたる人格形成の基礎を築いていきます。そのために適切な環境を整え子どもの心身の調和のとれた発達を促すことが、幼児教育の重要な役割となります。

現在、幼児教育を担っている幼稚園、認定こども園、保育所といった施設や、各家庭や地域等の多様な場において、質の高い幼児教育が行われなければなりません。しかし、急速な少子化の進行と家庭地域を取り巻く環境の急激な変化により、適切な環境下での幼児教育が従来よりも困難になっています。また、社会・経済・国際情勢の変化に伴い、自立し、他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な能力を身に付けることができるように、質の高い幼児教育を受ける必要性が高まっています。

幼児教育の振興にあたっては、水準の維持向上、全ての子が等しく教育を受けることができる環境が必要であり、小学校との円滑な接続を十分踏まえ配慮されなければなりません。そして、幼児教育に携わる者の自主性が十分に尊重されることが重要となります。

これらのことを踏まえ、国、地方公共団体と、それぞれの施設と、保護者が協力して、幼児教育の振興・充実に努める必要があります。さらに、幼児教育振興法案においては、幼児教育の無償化の推進と、幼稚園教員等の処遇の改善も併せて記述されており、法律の成立に期待がかかります。

ここに至るまでには、各園の教職員や保護者の皆様に署名活動等にご協力をいただき誠にありがとうございました。横浜市幼稚園協会は横浜市内の254園の園児・保護者・教職員の皆さんが、充実した毎日が送れるように研究・研修活動を実施したり、父母の会連合会の皆様と手を携え横浜市当局や横浜市会への要望活動を行っています。また、神奈川県私立幼稚園連合会や全日本私立幼稚園連合会とも協力して、県レベル、国レベルで実現したい子育て支援施策の具体策を提案したり、大震災等の復興への支援など、全国の子ども達の最善の利益を実現できるよう諸活動を行っております。今後も、協会活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

子どもと楽しく！

臨床心理士
横浜市幼稚園協会　子育て教育相談室相談員　鈴木 由美子

子どもとの生活を楽しく…

今これを読んでくださっているあなたは、親御さん歴何年でしょうか？

「子ども」というものが身近にいないまま「親」になることが多い時代です。何をどうしたらよいかわからないまま、初めての子育てに必死になって取り組んでこられたことと思います。子どもとの生活を楽しめていますか？　笑顔で暮らしていますか？

子どもががんばれる原動力は、家庭での生活

子どもたちは幼稚園生活を楽しめるようになりましたか？同じ年頃の友達とのかかわりは、子どもの人生の糧となります。あこがれたり、好きになったり、けんかしたり、まねっこしたり、ルールのある遊びができるようになったり。

やりとりの必要性に迫られて、言葉での関わりもだんだんに上手になるでしょう。

いつも見守ってくれていたお母さんから離れて、知らない子どもたち、見知らぬ大人たちの中で新しい人間関係を作っていくには時間がかかります。おうちでは、何も言わなくても気づいてもらえたいろんなことが幼稚園ではそうはいかなくて、困ってしまうこともたくさんあるでしょう。お母さんが何でもやってくれたのに、幼稚園では自分でやらなくてはいけないことばかり。クラスのみんなに先生がお話ししていることが、自分にも言われているのだとはわからなかったり、おうちと幼稚園のルールが違ったり、いろんなことで戸惑うことと思います。

その戸惑いに負けることなく新しいお友達を作り、幼稚園生活を楽しむための心のエネルギーはどこから湧いてくるのでしょうか？

そうですね。家庭です。幼稚園で幼稚園児として精いっぱい頑張れるのもおうちでちゃんとかわいがってもらえるからですね。入園したら甘えんぼになった、赤ちゃん返りした、などと思われるときには、それだけ新しい生活環境で子どもががんばっている裏返しなのだ、と察してあげましょう。そういう時には「もうお兄さんお姉さんなのにおかしいわ」ではなく、「抱っこしてあげよう」「絵本読んであげるね」「大好きなおやつ一緒に作ろうか」など、子どもと触れ合って安心させてあげてください。おうちでしっかり心に充電してもらうことで、また明日元気に幼稚園に行くことができるでしょう。

使いたいおもちゃも取り合いになったり、好きなように遊びたいのに集団活動があったり思い通りにならないことがいっぱいあっても、楽しいことがそれ以上にあれば、幼稚園生活を楽しむことができますね。

幼児期に楽しく過ごした時間こそ、一生の宝物

人生は長いのです。もしかしたらこの子たちの人生はあと 100 年もあるかもしれません。あわてることはないのです。丁寧に育てていきましょう。

挫折のない人生はありませんね。その時に、もう一度頑張ってやり直そうと思えるエネルギーは、この乳幼児期に蓄えられます。今まさに人生の土台作りをしている時なのですね。その土台をしっかりさせるために大切なものはなんでしょうか？

それは、「楽しい時間」です。家族と、友達と、どれだけ笑いあい、楽しんで過ごしたか、失敗してもやりなおすことができた、喧嘩しても仲直りしてまた仲良く遊べた、など、人とのかかわりを豊かに体験する時間です。また、自分の好きな物事に十分集中して遊べる時間です。子どもにはお金ではなく手と目をかける。家庭に笑顔があふれていて、安心安全の心の基地になっている。そういうことが、子どもの一生を支えていきます。人が好きで人と上手にコミュニケーションが取れること、自分が好きでこの世の中は生きていく値打ちがある楽しいところだと思えること、両親と世の中の人達への信頼感がしっかり育つことが、この幼児期に何よりも大切なのだと思います。

『子どもは「つ」のつくうち』と言う言葉があります。1つ・2つ・3つ…8つ・9つ。
どんなに親子関係が良くても、子どもは 10 歳になり、思春期に入っていくと一人の世界を探し始めます。親とよりも友だちとの関わりの方が大切になってきたりもします。その親離れの時期になる前に、しっかり親子で楽しんでおきたいものです。

やる気・好奇心・向上心・折れない心などが、この土台の上に育まれていきます。

毎日の生活が　『楽しむ』力をはぐくむものでありますように。

子育て教育相談室
【相 談 日】
毎週火曜日・金曜日（年末年始、祝祭日を除く）
【受付時間】
10時～12時　13時～15時

相談専用ダイヤル
045-534-8837
公益社団法人 横浜市幼稚園協会
http://www.kids-yokohama.or.jp
TEL 045-534-8708

子どもっておもしろい！

5 月 11 日（水）　横浜市幼稚園新規採用教員研修会

横浜市こども青少年局
保育・教育人材課　寳來 生志子

周りに相談できたことで…

採用２年目の先生方の体験談から始まった研修会。ベテランの先生のクラスとの差や子どもが自分の話を聞いてくれないことなどで悩んでいた３人。一歩踏み出そうと思えたきっかけは、一人で悩まず、周りの先輩や同僚に相談し、自分の保育を振り返ったことでした。

遊んでいる様子をよく見たり、一緒に遊んだり、まわりの先生方の言葉のかけ方や援助の仕方を探ったり…。そうすることで、子どもの気持ちを理解することができ、子ども自身が納得して次の行動に移れるような言葉かけができるようになったということでした。

体験談を受けとめての講演

「先輩の体験談」を受けての聖徳大学兼任講師の赤坂榮先生のご講演は、写真から子どもの気持ちを読み取るワークショップを交えた参加型の楽しい時間となりました。

赤坂先生からは、肯定的な見方で子どもをみると、子どもっておもしろい、と感じることができる。先生との信頼関係は子どもの心の中に、「人とつながるって楽しいんだな。」という気持ちを芽生えさせて、それは、生涯にわたる学びの牽引力になる。子ども自身が遊びの中で学びとれる環境をどう構成するか、意図的、計画的な支援が欠かせない。そのために記録に残したり、今日のように子どもの姿を見て同僚と語り合ったりして、子どもの気持ちを捉え続けることが大切だとのお話をいただきました。

参加者の感想

参加した先生方からは、「先輩の体験談を聞いて、私だけの悩みではなかったのだと安心しました。私ももう少し頑張ってみようと思いました」「子どもの視点に立って考えてみるということを忘れてしまっていました。失敗を恐れず、成長してきたいと思います」という感想が聞かれました。

８月４、５日にも、実技研修などが行われます。子どもたちの笑顔のために学び続ける１年目の先生たちです。

▲講演を聞く参加者

お知らせ

～保護者と共に～「育ちと学びをつなぐ」フォーラム
28 年 12 月 17 日（土）神奈川公会堂

①幼児教育・幼保小連携、アプローチ・スタートカリキュラムの重要性を子どもの姿で発信
②幼保小連携推進地区のポスターセッションで地域に応じた多様な取組みをポスターセッションで発信
③「すくすく子育て」でご活躍の玉川大学教授 大豆生田 啓友先生のご講演など

対 象 者：幼稚園・保育園・認定こども園・小学校等の教育・保育関係者、保護者
申込方法：横浜市こども青少年局ホームページに後日掲載します。
http://www.city.yokohama.lg.jp/kodomo/youji/

▲研修会聖徳大学兼任講師の赤坂榮先生のご講演

平成 28 年度横浜市幼稚園大会開催！　395 名が永年勤続表彰される大会となり、大会宣言も採択され無事終了！

▲壇上で表彰を受ける先生方

▲会長

▲副市長

▲父母の会会長

平成 28 年度横浜市幼稚園大会が、6 月 29 日（水）に横浜市文化体育館で、横浜市副市長、横浜市会議長、市会各党団長、行政関係者、養成校の代表者など多数のご来賓の皆さま方のご臨席のもと開催された。

まず羽田哲副会長が壇上に立ち、開会を宣言した。続いて木元茂会長、鈴木妙子父母の会連合会会長が挨拶に立った。

この後、教職員の永年勤続表彰が行われた。まず勤続 20 年、15 年、10 年、5 年の順に教職員が登壇し、木元会長からそれぞれの代表者に表彰状と記念品が贈られた。続いて、勤続 40 年、35 年、30 年、25 年の節目を迎えた教職員の方々の表彰が行われ、それぞれの代表者に表彰状と記念品が贈られた。今年は総勢 395 名の教職員が長年幼児教育に貢献した功績をたたえ表彰された。

さらに勤続 20 年、15 年の教職員の方々に対しては横浜市長表彰が行われ、柏崎誠横浜市副市長から代表者に表彰状と記念品が授与された。

▲大会宣言を読む父母の会副会長

▲謝辞を述べる受賞者

次に、来賓の方々からお祝いの言葉を頂いた。

ここで、中島乃里枝父母の会連合会副会長より大会宣言案が読み上げられて、満場一致で採択され、後日横浜市及び横浜市議会に届けられることになった。

最後に、永年勤続表彰を受けた教職員を代表して田嶌通子先生が謝辞を述べた。

以上で式典はすべて終了し、参加者全員で幼稚園讃歌を斉唱した後、山崎和子副会長が閉会の辞を述べて、本年度の横浜市幼稚園大会は閉幕した。

□永年勤続表彰数一覧

勤続年数	人数
５年	１８２名
１０年	１１６名
１５年	４９名
２０年	２３名
２５年	１２名
３０年	８名
３５年	３名
４０年	２名

平成 28 年度横浜市幼稚園大会　大会宣言　H28. 6. 29

私たち横浜市幼稚園協会加盟園の教職員と父母の会連合会の保護者 10 万余名は、『笑顔あふれる横浜のために　育もう子どもの未来』のテーマのもとに、平成 28 年度横浜市幼稚園大会を開催いたします。

私たちは、横浜の子どもたちが心身ともに健やかに成長するために、家庭教育の向上、安全な社会の構築を願っています。さらに、幼児教育の振興を図ると共に、お互いに手を携え生きる力を育むため、最善の生活環境を整えるべく努力し続けることを宣言します。

一、人としての教育の原点は家庭にあることを常に意識し、家族が協力し合って絆を深め、家庭が子どもにとって最も安心できる場であるよう努めます。
一、地域社会に参加することにより、人々との輪をひろげ、互いに関心を持ってより安全な社会を目指し、子育てしやすい環境作りに努めます。
一、心豊かな子どもを育むため、私立幼稚園・認定こども園の教育を通して、「生命（いのち）の尊さ」「人と人の絆」「思いやりの心」を親子で学びあい、成長していくことに努めます。
一、現在（いま）の子どもの健やかな成長が、豊かな実りある未来を作る原動力になるとの確信のもと、横浜市内全ての私立幼稚園・認定こども園に子どもを通わせている保護者の代表として、上記のことを実現するために私立幼稚園就園奨励補助金制度と共に新制度における給付金にもご配慮いただき、どの子どもも充分な恩恵を受けることができることを切に願い、市長・市議会及び行政当局に訴え働きかけます。

幼稚園大会とは

この横浜の「幼稚園大会」は、昭和 36 年度の第 1 回開催から優に半世紀を超える歴史を持っている伝統ある行事である。当初は「先生の日大会」という名称であった。当時はまだ物資のない頃で、先生たちは工夫しながら教材作りに励み、保育の充実をはかっていた。そうした先生たちの努力をたたえ、またこれに感謝し、さらに励ますことを目的として、「先生の日大会」は始まった。やがて保護者の方にもご参加いただき、名称も「幼稚園大会」に改めた。会場も横浜文化体育館とし、教職員・保護者四千名が参加する、名実ともに横浜の幼稚園にふさわしい大会となった。「幼児期における教育の重要さを広く市当局や市民に訴えること」も趣旨の中に盛り込まれた。市長表彰も行われるようになった。これは、幼児の成長、発達に欠くことのできない集団教育を、横浜市はすべて私立幼稚園の教育に委ねていることから始められた。

幼稚園の役割

現在、横浜に限らず、子育てにおける幼稚園の果たす役割は非常に大きい。横浜型の預かり保育は朝 7 時半から夕方 6 時半まで子どもたちを預かり、働く保護者のサポートをしている。その数は協会加盟園の 70％を占める 176 園である。また地域の子育て拠点として、相談相手のいない若いお母さんたちの悩みや疑問に答えたり、子育てのちょっとしたアドバイスをしたり、ノウハウを伝えたりしている。園庭の開放や学童保育の方面までカバーする場合もある。今やますます難しくなってきている子育ての諸々の問題に正面から向き合っているのが幼稚園だと言える。

地域に密着し、それぞれの環境の中でよりよい子育ての道を模索する日々が現在も続いている。

～夏は蚊にご注意を！～

デング熱、ジカ熱と忘れてならない日本脳炎

さいとう小児科（横浜市磯子区）
小児科医師　齋 藤 綾 子

大きなニュースとなった、デング熱・ジカ熱

２年前の夏、東京都内（代々木、新宿）で約 70 年ぶりにデング熱患者が発生し大きなニュースになったことは、皆様の記憶に新しいと思います。台湾より南の熱帯・亜熱帯の感染症だと思っていた、蚊（ネッタイシマ蚊、ヒトスジシマ蚊）が媒介するデングウイルス感染症が関東地区で発生し、約 20 名の罹患者が出ました。幸い、昨年は流行が無く一安心でしたが、今年の夏はどうでしょうか？

そして昨年から今年にかけ、南米のジカ熱（ジカウイルス感染症）の流行が世界に衝撃を与えました。ジカ熱は小頭症との関連が疑われています。今年はブラジルでオリンピックが開催されることもあり、ジカウイルスが世界各地に拡散することが危惧されています。ジカ熱は南米限定の感染症の様に思われていますが、その分布はもともと東南アジアに広がっておりデング熱の分布と重なっています。今回南米で流行しているジカ熱は、数年前に太平洋熱帯地域の島嶼地域から、感染した人によって南米に運ばれてきたと考えられています。このジカ熱を媒介する蚊はやはりネッタイシマ蚊とヒトスジシマ蚊です。ヒトスジシマ蚊は秋田・岩手以南に生息しており、条件がそろえばデング熱やジカ熱が日本国内で発生する危険性がありそうです。

デング熱、ジカ熱共に感染予防ワクチンや治療に役立つ特効薬がないので、蚊を発生させない環境作りと蚊に刺されない工夫など、地道で絶えざる努力が必要です。

日本脳炎もまだまだ注意が必要

そして忘れてならないのは「日本脳炎」です。日本脳炎ウイルスは、デングウイルス、ジカウイルスと同じ仲間のウイルスで、３ウイルスともフラビウイルス科に属しています。日本脳炎を媒介するのはコガタアカイエ蚊です。毎年、日本脳炎ウイルス分布状況が調査され、本州以南の多くの地域で日本脳炎ウイルスが生息している事が確認されています。日本脳炎ウイルスに感染しても実際に脳炎を発症する割合が低く、身近に日本脳炎患者を見聞きしないことから、日本脳炎ワクチンは必要無いと思っていらっしゃる方もいます。日本脳炎ワクチンの啓蒙活動が控えられていたこともあり、ワクチン接種率が低下し、日本脳炎ウイルスに対して感染防御されていない子供が増えています。しかし、去年、千葉県でワクチン接種をまだ受けていなかった子供が日本脳炎を発症し後遺症を残しました。なぜか、マスコミで大きく取り上げられなかったのでご存知無いかもしれません。もともと生後６か月を超えたら日本脳炎の予防接種を受けられますが、地方自治体は標準的な推奨接種年齢（３歳以上）の子供を対象に日本脳炎ワクチンのお知らせと予診表を送付しているため、６か月以上で３歳未満の年齢で日本脳炎ワクチン接種を受けられることを知らない方々が殆どです。蚊が媒介する感染症（ジカ熱、デング熱、日本脳炎、ウエストナイル熱、マラリアなど）のなかで、ワクチンで発症予防できるのは日本脳炎だけです。日本小児科学会はこの事態を憂慮し、「日本脳炎ワクチン接種をもっと積極的に検討して欲しい」と声明を出しました。

日本脳炎には有効なワクチン有り！

盛んに報道されるジカ熱、デング熱が心配なのはもっともな事です。新しいミクロの脅威が迫ってくる危機感が感じられます。しかし一方で、その名も「日本」脳炎という同じ仲間のウイルスが、この関東地域にはもともといます。そして、この日本脳炎には、発症予防に有効なワクチンがあります。是非、お子様の日本脳炎ワクチン接種が完了しているか母子手帳を確認して下さい。大人でも防御免疫が無ければ発症する危険性がある疾患ですから、ご自身の接種歴も確認して下さい。WHO（世界保健機構）が 2012 年に地球規模で作成した日本脳炎危険地域地図をみると日本全体が色づけされています。「灯台もと暗し」にならないように！

日本脳炎ウイルス分布（CDC 資料改編）

▲2012 年に地球規模で作成した日本脳炎危険地域地図

子どものきもちは、ピュアなもの

寺尾第二幼稚園　　亀井　観一郎

１学期も後半に入り、子ども達も幼稚園に慣れてきたことと思います。子どもが「慣れる」ことは、園の子どもの中で自分の居場所ができ、一日のプログラムやスケジュールがわかってきたことを意味します。

クラスの集団で、皆と同じ事を行うのが嫌な子もいます。或る著名な作家は幼い頃、子どもの集団で全く同じ行動をすることに、恐怖感をもったといいます。また頭で「こうしなくてはならない」と思っていても、行動が伴わないことは多々あり、夏休みの宿題は、最後の数日に完成されるというわけです。

多くの幼稚園では、自由に遊ぶ時間があり、そこで自分の感性や興味関心を発揮できますが、すぐには表現できないお子さんもいます。また、場合によると、登園を嫌がったりしますが、それは未だ園に慣れることができず、或る意味で新鮮な気持ちをもっているからです。その純粋な、ピュアな気持ちを考えてあげて、まずお子さんの気持ちを受け容れてあげましょう。幼稚園には保育室の環境、多数の子ども、制服や園のルールなど未だ分からない理解できないものや、場合によると嫌いな活動があると思います。

お子さんに、こうあって欲しい、先生の言うことをよく聞いて欲しいなど、「過剰に要求せず」、まずお子さんの気持ちを受容し、「お子さんのやることは、皆、正しい、花マルなのだ」と幅の広い気持ちで接してあげましょう。子どものやる失敗やエラーは保護者の方の見方、考え方次第で変わるものです。「失敗やエラーは無い、皆、マルなんだ」と大らかに受け止めると、お子さんは自信を持ち、幼稚園に生き生きと行くようになるかもしれません。

ロシアの作家ドストエフスキーは「人と人の心が真に出会う瞬間にこそ、人間の幸福が在るのだろう」と言っています。

☆　☆　☆　☆

「通信簿　金魚に見せてゐる　子どもかな」
（中田 尚子）

以前、私の園で黒い可愛いウサギを飼っていた頃、年中組の男の子が「くろちゃん、ぐりとぐら読んであげるね」と、ウサギに一生懸命に絵本を読んで聴かせていました。幼児は、動物や樹木、石にも人間と同じ魂が宿っていると思っています。

歌人、劇作家の寺山修司さんは、小学校低学年の女の子が、「うらしまたろう」の昔話を聴いて「せんせい！うらしまたろうさんは、乙姫さまに＜さようなら＞を言った時、お口に海の水が沢山入ったでしょうね」と感想を述べたのを聞いて、子どもの天使性に脱帽したそうです。

熊本地震への見舞金のご報告

この度の熊本地震において被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。

横浜協会では、全国 20 の政令市で構成する政令指定都市私立幼稚園団体協議会からの要請を受け、被災をされた熊本市私立幼稚園協会へ見舞金として 260 万円（４月政令市一次要請 10 万円、６月協会独自対応 250 万円）を政令事務局を通じてお送りいたしましたので、ご報告申し上げます。

なお、この見舞金は同協議会の災害援助協定に基づいて横浜協会が毎年積立をしている災害積立金より拠出いたしましたので、併せてご報告申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

父母の会の組織と活動

平成 27 年度活動報告

5／19　第 1 回　委員会

6／15 ～7／1
横浜市会への要望活動

6／24　幼稚園大会（横浜文化体育館）
参加人数　教職員・保護者 2,383 名

7／10　政令市私立幼稚園団体協議会
川崎大会参加（PTA 分科会発表）

7／13　ＰＴＡ全国大会　（ホテルオークラ東京）

9／25　父母セミナー　横浜市西公会堂
参加人数　494 名
「幼稚園で培う２１世紀型学力の基盤」
講師：奈須　正裕　先生

11／19　県連父母の会連合会研修会（パシフィコ横浜会議センターメインホール）
横浜協会より 472 名が参加

11／26　常任委員会

1／26　新年意見交歓会　（ロイヤルホールヨコハマ）
参加人数　317 名（父母の会より 8 名参加）

3／　8　第 2 回　委員会

「子どもが健康で心豊かに育つように」という願いは、家庭も幼稚園も同じです。お互いの理解と信頼を深めることが、子どもの健やかな成長にとって、とても大切なことです。各幼稚園では形式や名称は色々ですが保護者の方々の集まりの会等で、幼稚園の園児の生活の環境づくりにご協力していただいていることと思います。幼稚園協会加盟の保護者の皆様のご協力をいただき組織しているのが「横浜市幼稚園父母の会連合会」です。連合会は加盟園の保護者約 45,000 人の集まりとなり、各支部（各区）からの代表の方に委員をお願いして活動をしてまいります。主な活動は、幼稚園大会の運営や父母セミナーの企画開催・運営です。また、横浜市への陳情や要望活動等も行っています。

子どもの幸せを願う保護者の団体として、皆様のご協力をいただきながら、横浜の子ども達の幸せな環境づくりのお手伝いをしてまいりたいと思います。

第 24 回父母セミナーのお知らせ

日時　平成 28 年 9 月 9 日（金）
10 時 20 分（受付 10 時）～ 12 時 10 分

会場　横浜西公会堂（西センター）

講師　東京医科歯科大学名誉教授
藤田　紘一郎　先生

テーマ「きれい社会の落とし穴」

講師紹介　寄生虫博士・カイチュウ博士として知られる医学博士。専門は寄生虫学、熱帯病学・感染免疫学。「現代日本社会の超清潔志向がアレルギー病をまねき、日本人が身体的にも精神的にも世界一衰弱した民族になっている」と説く。日本テレビ「世界一受けたい授業」に講師として出演。

申込み方法：各園に申し込んでください。

編集後記

今年度の協会報第一号が出来上がりました。たくさんの方に読んでいただけるように「いろいろな視点」で、幼児教育に取り組む協会の方向性が見えるように「わかりやすく」お届けできたらと考えています。子どもたちの笑顔や元気あふれるそれぞれの園が、協会活動を支え、ひいては、子どもたちの幸せの為に、という大きな流れを作っていきます。皆様にご協力をいただき、広報活動に取り組んでいきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

広報部長　　浅沼郁子